

## 講師の言葉一つ一つに薫陶・・・すばらしい時間 —ふるさと講座に参加して— 秋山康則

第10回ふるさと講座「ホタテ」に参加させていただきました。

会場に入ると、「ふるさとから学ぶ会」代表の梅田さんが「いの一番に申し込んでくださり、うれしかったですよ。」と私に声をかけてくださいました。私は4月に初めて湧別町民となり、町の産業のことを詳しく知らなかったため、この講座があると知ってすぐに申し込んだのでした。

開会に当たり、梅田さんから「本講座は10周年、節目の講座であり、講師はこれ以上の方はいないというほどホタテのことを知り尽くした皆様です。我々町民でも知っているようで知らないことがたくさんあります。ぜひお話をお聞きください。」とのご挨拶がありました。ご挨拶のとおり、本講座は私にとって、町の特産品「ホタテ」のことを知る貴重な機会となりました。

第1部はホタテ漁業の歴史についてのお話で、外海の漁場を4つに区切って4年ごとにホタテを採り、資源の管理を徹底していることや、操業日誌の記録にタブレットを導入していることなどを知りました。第2部前半は採苗から出荷までのお話で、養殖に使っている用具を実際に見せていただきながら、1年間の作業の流れについて詳しく理解することができました。第2部後半は貝柱などの加工品についてのお話で、高級食材として海外へ出荷されていることを初めて知りました。

お話の中で心に残っているのは、「良い品質のものを作るためには、サロマ湖の環境を守っていかなければならない。」との言葉でした。「100年先の自然を今から考える。」「森は海の恋人、川はその仲人。」など、自然環境を守るための見方・考え方にも感銘を受けました。

また、とても興味深く感じたのは、寺本さん（寺本商店専務）の言葉でした。私は、寺本さんのお話を学校教育と重ね合わせながらお聞きしていました。例えば、

- ・「HACCPに基づいた生産体制の実現」→「学習指導要領に基づいた深い学びの実現」
- ・「私どものホタテをどうアピールするか。」→「教育活動の成果をどう説明するか。」
- ・「製品のおいしさを引き出すのに、海水に勝るものはない。」→「子どもの心や言葉の力を育てるのに、読書に勝るものはない。」
- ・「企業としてうちはどういうふうになりたいか、これをもっていないとこれからはなかなか難しい。」→「学校としてうちはどう子どもを育てるか、ビジョンをもっていないとこれからは難しい。」
- ・「『本物のおいしさ』を届けたい。」→「『本物の教育』を追い求めたい。」

というようなことです。これからの学校づくりにも活きる視点をたくさんいただきました。

講師の皆様の言葉一つ一つに薫陶を受ける、すばらしい時間となりました。ありがとうございました。

(錦町在住 秋山康則 湧別小学校長)

学校づくりにも  
活きる視点  
たくさん  
いただきました



## < 講座参加者の感想・意見～アンケートから >

- ・ふるさとの事を学ぶ！ とても大切な事だと思いました。今回、この講座に参加でき良かったです。いつも食する“ホタテ”漁師さんをはじめたくさんの方々の思いで美味しく頂けることに感謝です。  
知らなかった事ばかりでとても勉強になりました。  
(50代、女性、中湧別)
- ・ふるさと湧別の漁業の歴史。「育てる漁業」の様子、加工・販売の様子、そして何よりふるさとの講師の方々の思いや願いなど貴重なお話をお聴きすることができ、大変有意義でした。また、感激しました！  
4月から初めての湧別町民になりましたが、ホタテのことを知っているようで知らないことがたくさんあった中、本当に勉強になる講座でした。今後、ふるさとの味覚、ふるさとの産業、ふるさとの皆様のご苦勞に感謝し、おいしいホタテをいただきたいと  
思います。個人的に、私の職業である「教育」（子どもを育てること）と重ねて拝聴いたしました。重なる部分、大切なことがたくさん見つかりました。(50代、男性、湧別)
- ・昔なつかしい浅野さんの事がでたので、なつかしい名前に感動しました。若い時、本当にたすけられました。(60代、女性、湧別)
- ・昭和40年代と現在では、ずいぶんと変化しているとおどろきました。先人の苦勞が分かりました。(60代、女性、湧別)
- ・ホタテ1枚にこんなに手間がかかるとは思いませんでした。改めて、漁業者の皆様ご苦勞様です。  
(70代、女性、湧別町)
- ・普段聞き慣れている作業上の言葉、道具、施設の名称等実際にその内容が理解できました。最後まで受講できませんので、質問できませんが文章で致します。  
①各海区間でのホタテの自力での移動による混合はおきないのか？  
②将来的には農作物や家畜のような品種改良は考えないのか？必要がないのか？不可能なのか？(60代、男性、上湧別)
- ・オゾン滅菌海水洗浄、中国からの技能実習生、冬場の仕事(寿司ネタ用開きホタテ)自社内での検査、育てる漁業の本質(環境保全及び継続)を学ばせて頂きました。(80代、男性、中湧別)
- ・今日に至るまでの現場の方々のご苦勞がよく解ったのと同時に湧別のホタテに町民としての誇りを感じた。(60代、男性、中湧別)
- ・タイムリーな企画です。講師の方々に感謝申し上げます。(70代、男性、上湧別)
- ・1. 森義文様・・・とても良く説明していただきました。アイスブームの事も初めて知りました。全く知らない事ばかり、有難うございました。  
2. 町元直春様・・・養殖に大変苦勞されている様子が良くわかりました。5人共働→3人共働→個人経営 良質なホタテ作りに苦勞されているのですね、頑張ってください。  
3. 寺本由美子様・・・加工には海水が一番なのですね。来年もホタテをいただいたら我が家でもうすい塩水で洗うようにしますね。アイスブームパンフレット素敵です！！  
4. 石本武男様・・・植林にふれてもらったのは大切でした。(70代、女性、中湧別)
- ・大変良い講座でした。(80代、男性、芭露)
- ・関係機関の方々の苦勞のどん底からはい上がって今のホタテの成功があったことがよくわかりました。又、毎年ホタテを町内の隅々までくばって頂き本当に有難うございました。厚く御礼申し上げます。(80代、男性、芭露)
- ・ホタテの町に住んでいてあまりよくわかってないと思いき講座に出席しました。身近にあってあたりまえのホタテの育成に努力された沢山の先人に感謝します。講師の方々の丁寧なお話よくわかり出席させてもらい良かったです。(70代、湧別)



- ・何時もおいしいホタテをごちそうになっていますが、ホタテ養殖の歴史ホタテの一生を知る機会になり、感謝して、よりおいしくいただけます。ありがとうございました。(70代、男性)
- ・ホタテの養殖は三漁協の協力のもと行われてきたことや厳しい管理によって品が高く、安定した生産ができること等を知って、ホタテに対する興味が更にわきました。たくさんの方々の手塩にかけられたホタテをこれからももっともって食べていきたいと  
思います！  
(50代、女性、遠軽)
- ・ホタテに関する歴史、現状、IOTなどの未来の形まで知る事ができ、とても勉強になりました。

これまでのホタテ漁に関する人々のご苦勞を思うと、これからもっとおいしく、ありがたく食べさせて頂きたいと思ひます。「サロマ湖生まれのオホーツク育ち」のホタテ町民として自信をもってどんどんPRできるなど感じました。(50代、女性、湧別)

- ・ホタテに携わる人からの生の話が心に響きました。技術革新もさることながら、人の苦勞、マンパワーがなにより大切なのではと思ひました。ありがとうございました。(50代、男性、上湧別)
- ・説明時マイクから聞くのですが、顔をスライドに向けたとき、声が途切れた。ヘッドピンマイクが初めから欲しかったです。また、説明時にレーザーポイントがあれば良く理解できたのでは？スライドの中でアップの場面が欲しかった。山川海皆繋がってる。よかった。(70代、男性、上湧別)
- ・育てる漁業(ホタテ)の歴史が良くわかりました。(70代、男性、上湧別)
- ・「ホタテ」は美味しく大好きですが、多面的にとらえて地域の財産としての「ホタテ」の価値を改めて知ることが出来ました。(70代、女性、上湧別)
- ・勉強になりました(70代、女性、中湧別)
- ・漁師皆様のご苦勞が分かりました。無償提供されるホタテ貝感謝して美味しく頂きます。ありがとうございます。(70代、女性、湧別)



- ・漁業者のみなさんが、サロマ湖を守っていくという強い想いをすることができました。漁業に携わる方々の苦勞と努力のおかげでおいしいホタテが食べられるとわかりました。感謝の気持ちを持ってホタテを美味しくいただきたいと思ひました。(30代、女性、中湧別)
- ・漁業者の苦勞があつておいしい帆立が食べられていると思ひました。大事に食べていきたいと思ひます。寺本さんの玉冷は地方の人は、プリプリしていてとても美味しいと毎年注文されます。(70代、女性、湧別)
- ・「垂下」とか「上架」など、耳で聞いてわから

ない言葉についてもう少し説明があるとありがたいです。(50代、男性、遠軽)

- ・美味しく食べているホタテの漁業者、加工者、組合それぞれの立場からの発信がためになりました。サイズが小さくなっている事が心配ですね！ありがとうございました。(60代、女性、中湧別)
- ・サロマ湖内の養殖施設の配置図におどろきました。多くの人々の努力や工夫でおいしい海の幸をいただけているのだなと感じました。実際に使っている道具を見ることができてとてもよかったです。作業の様子が分かりやすかったです。寺本さんのお話をきいて、海水を使って加工していることを知りました。いつもおいしくいただいています。ホタテにオス、メスがあることもびっくりですが、寺本さんから食感のちがいを教えていただけて良かったです。(30代、女性、上湧別)
- ・湧別について知識を深められる素晴らしい講座でした。運営の方々、講師の方々に感謝いたします。森さん、町元さんのお話が特に面白かったです。意見交換の時間はもう少し多くても良いと思ひます。参加者が質問を気軽にできる雰囲気になるまで、少し時間がかかると思うからです。専門の方が多く来ているので、短時間で少しもったいないなと思ひました。(30代、男性、上湧別)
- ・ふだん知らない事を知る事ができました。ありがとうございます。毎回楽しみにしています。(70代、女性、上湧別)
- ・湧別町に地域おこし協力隊として移住してきて1か月が経ちました。初めての参加でしたが、とても貴重な時間となりました。ホタテ漁業がどういう流れなのか気になっていたのが参加しましたが、その他にも学ぶことがたくさんあり、とても勉強になりました。今日学んだことを活かして、私も何か発信したいと思ひました。参加して本当に良かったです！！ありがとうございます。(都会でこのような会を開いても、これほど人が集まらないと思ひます。ふるさとを愛しているという気持ちがとても伝わってきました。)(20代、女性、中湧別)
- ・ご苦勞様でした。(50代、女性、湧別)



講座は、84名(一般63名、関係者21名)の参加で行われ、61人の一般参加の方から、アンケートの回答をいただきました。ありがとうございます。

# 「この町の知らなかったこと(お宝)が沢山ある」

## —第10回ふるさと講座に参加して— 牧野裕司

日本国内はもとより、世界中で拡大している新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい終息が見えない状況下、今年は今までの日常生活とはかけ離れた毎日を過ごしているのではないのでしょうか。

第10回ふるさと講座で「ホタテ」を学ばせていただきました。毎年、6月に湧別町の海の宝「ほたて」が漁業者・漁業協同組合のご厚意により全世帯に配布され、「今年も美味しかったね」という会話が飛び交っています。

サロマ湖で1年間育てた稚貝をオホーツク海で3年間育て、4年目に獲るという方法を北海道で初めて採用し、今では湧別ブランドとして日本国内はもとより、アメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国に輸出されるまでに至ったことは町のお宝であります。ここまでに至る漁業者、加工業者、漁業協同組合関係者の皆様のご苦勞は計り知れないものがあったのだと改めて感じさせられました。

さて、これまで10回の「ふるさと講座」と「我がまち湧別町のお宝をたずねる旅」が、ふるさとから学ぶ会会員の皆様の立案により開催され、我が町のお宝探しのできたことに感謝をしている1人です。

振り返りますと平成21年10月5日に新しい湧別町が誕生しました。明治43年に湧別村と上湧別村が分割され、隣の自治体として発展してきた町が100年後にまた一つの町として歩むことになったことはご承知のとおりであります。

合併当時に教育関係職員として在籍していた私が感じたことは、町のこと(歴史、文化財など)を知らなすぎるということでした。これからも住み続ける我が町のことを知る方法は何かないだろうかとの思いから「我が町のお宝探し」を、ふるさと館JRY学芸員と相談し2回実施されたことが思い出されます。

その後、ふるさとから学ぶ会が組織され、次々とお宝が紹介され現在に至り、有意義な時間を過ごさせていただいていることに感謝の言葉しかありません。

「ふるさと講座」「お宝をたずねる旅」に参加をされている皆様が、それぞれ違った観点で「お宝」を学んでおられることと思いますが、共通して感じていることは、「湧別町を知り、湧別町を好きになり、湧別町を守り育てる」という気持ちだと思います。

ふるさとから学ぶ会の皆様には、これからもこの町の知らないこと、お宝を発見していただき、学ぶ会が益々発展していただくことをご祈念申し上げます。

(中湧別南町在住 牧野裕司 元湧別町教育長)

湧別町の特産品「ホタテ」をテーマにした第10回「ふるさと講座」は、コロナ禍の下、出来得限りの感染防止対策を行っての開催となりました。集まることに不安を感じる状況の中、多くの方の参加に「ホタテ」の関心の大きさを感ずりました。

採苗から始まるホタテの養殖は、稚貝の成長に合わせて、良い環境を与えないと良いホタテに育たないことを、持参した漁具を使って、町元直春さんに教えていただきました。驚きと感心の連続でした。生産者の苦勞に思いを寄せ、消費者へ「本物のおいしさを届けたい」と、サロマ湖の海水にこだわり、努力されている寺本由美子さんのお話に感動しました。オホーツクの厳しい自然と闘い、共にサロマ湖を抱く佐呂間、常呂と携えて共生の道を確立し、今、厳格な「輪採制」実施の下、SDG'sの求める「持続可能な生産活動」を実践している湧別漁協の姿・石本組合長、森参事の講話に誇りを感じました。

異なる立場からのお話でしたが、講師の皆さんの「ホタテ」への強い感謝の気持ちが直に伝わり、町民にとって、「ホタテ」がいかに大切か、深く知ることができました。サロマ湖とオホーツク海が隣接していることが、ホタテの成長・生産にとって、これ以上ない好条件であり、サロマ湖とオホーツク海を守ることが、私たちの暮らしを守ることになると分かりました。大切なことをたくさん教えていただいた森さん、町元さん、寺本さん、石本さん、ありがとうございます。

本講座にご支援・ご協力いただいた皆様、参加いただいた皆様、ありがとうございます。皆様のご協力により、充実した講座になりました。心から感謝申し上げます。

(ふるさとから学ぶ会 梅田 唯士)

